

令和 4 年

高松市教育委員会 6 月定例会

会 議 録 (抄本)

6月28日(火)開会

6月28日(火)閉会

出席した教育長及び委員			
教 育 長	小 柳 和 代		
委 員	吉 澤 潔		
	葛 西 優 子		
	関 元 盛 夫		
	小 方 朋 子		
	富 家 佐 也 加		
欠席した教育長及び委員			
説明のため会議に出席した者等			
教育局長	森 田 素 子		
教育局次長 総務課長事務取扱	長 谷 山 隆 義		
中央図書館長	石 野 知 津		
少年育成センター所長	米 谷 利 彦		
総合教育センター所長	宮 脇 充 広		
総合教育センター所長 補佐	遠 藤 智 子		
総務課長補佐	香 川 昭 子		
総務課総務係長	別 所 里 美		
会議録署名委員	小 方 朋 子		
事務局担当書記	岡 谷 有 紗		

【特記事項】 傍聴人なし

議 事 日 程（6 月 定 例 会）

日程第 1 議案第 24 号 高松市図書館協議会委員の任命について

日程第 2 報告事項

- 1 令和 4 年第 4 回高松市議会定例会答弁要旨について
- 2 高松市少年育成センター運営協議会委員の委嘱について
- 3 第 1 7 回高松市子ども読書まつり「読書感想画」作品募集及び
第 1 1 回「高松市 図書館を使った調べる学習コンクール」作品募
集について
- 4 幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業について

【令和4年6月28日（火） 議 事 内 容】

午前9時30分 開会

教育長が、会議録の署名委員に小方委員を指名。

日程第1 議案第24号

議案第24号 「高松市図書館協議会委員の任命について」

中央図書館長から、高松市図書館協議会委員の任命について説明。

<質疑>

(発言する者なし)

教育長が、各委員に諮り、原案のとおり可決。

日程第4 報告事項

報告事項1 「令和4年第4回高松市議会定例会答弁要旨について」

教育局長から、令和4年第4回高松市議会定例会答弁要旨について説明。

<質疑>

(発言する者なし)

報告事項2 「高松市少年育成センター運営協議会委員の委嘱について」

少年育成センター所長から、高松市少年育成センター運営協議会の委嘱について説明。

<質疑>

(発言する者なし)

報告事項3 「第17回高松市子ども読書まつり『読書感想画』作品募集及び第11回『高松市 図書館を使った調べる学習コンクール』作品募集について」

中央図書館長から、第17回高松市子ども読書まつり「読書感想画」作品募集及び第11回「高松市 図書館を使った調べる学習コンクール」作品募集について説明。

<質疑>

(発言する者なし)

報告事項4 「幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業について」

総合教育センター所長から、幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業について説明。

<質疑>

- 委員 幼小連携の話は随分長くされてきましたし、小1プロブレムの話が出てきたのも15年から20年前になると思います。その頃から、幼小の連携については研究を積み重ねてこられたので、既に高松市の幼小連携の実績はかなりあげられているのではないかと思います。その上に、何を重ねていこうとしているのか、また、行事等の交流だけではなくカリキュラムの話もありましたので、小学校のカリキュラムのどのようなところを変えるのかということ具体的なイメージを教えてください。

- 総合教育センター所長 今回の課題としましては、子どもの学びをつなぐということで、従来のスタートカリキュラムや幼児カリキュラムといったものは、就学前施設や小学校でカリキュラムは存在していたのですが、それぞれで取り組んでいたカリキュラムに子どもの姿を通した学びが意識されていないのではないかという課題が見えてきました。そこで、まずは教職員が気軽に対話できて、子どもの姿を通して語れる関係の構築を図ること、次に、子どもの学びの共有をすることで、就学前の遊びの中での

学びが小学校の教科学習等にどのように繋がっていくのかということも含めた共有と分析をすること、次に、連携校区の実態に即した接続期カリキュラムというのは、各校区でそれぞれの地域の実情等もございますので、そこは地域の実情というのが地域の課題にもなってくるかと思えます。そういった課題についても意識した接続期カリキュラムの充実と改善を研究の柱として、従来あるものに更に子どもの姿を通して、より意識した取組が行えるよう、研究開発をしていきたいと思えます。特に小学校現場では、小学校に入学したときに早く小学生にしてしまおうとして、小学校の枠に入れてしまうようなところもありますので、そういったところも就学前での子どもの育ちや学びを意識した上で、子どもたちに関わっていけるカリキュラムの質を上げていくと、関わり方の質が変わってくるのではないかという風に考えております。

- 委員 カリキュラム開発会議の1年目の開発校区で、3校区選ばれていますが、人数が中規模の校区を選ばれているのですか。

- 総合教育センター所長 概ね中規模の小学校となっております。檀紙校区におきましては、私立の就学前施設を新たに加えました。今まではどちらかと言うと公立の就学前施設と公立の小学校での連携が指示されておりましたが、子どもたちがより様々な施設から入学してまいりますので、私立施設との関りも含めた研究開発をしております。

- 委員 校区によっては、児童数の多いところであると、幼稚園や保育所が15か所、20か所とあるところがありますね。そういったところは結構連携すること自体も大変で、実際に連携することがうまくいっていないところもそういった児童数の多い校区であるような気がしますので、研究校区に児童数の多い校区を入れられるのであれば入れたほうがいいと思えます。

- 総合教育センター所長 ひとまず1年目ですので、3つの校区で実践してみた課題を基にして、どういった連携の在り方がいいのかというのを探ってまいりたいと思えます。特に街中の学校ですと、たくさんの多様な施設から子どもたちが入学してまいります

ので、そういったところとの連携の取り方や工夫などについても、各校の実践を基に探ってまいりたいと思います。

- 委 員 そういった研究成果をどのようにして全体に広げていくのですか。

- 総合教育センター所長 研究成果につきましては、冊子等に成果やポイントをまとめたものを資料配布したり、あるいは研修会等で活用したりして広めてまいりたいと思います。

午前10時21分 閉会

議決事項

「高松市図書館協議会委員の任命について」